

□九月二十九日午後七時

現象學に於ける質科及意味 務臺理作教授

尙本學哲學科教授鈴木弘氏は先年獨逸留學を命ぜられ、哲學、宗教の研究討論に二年有半を彼地におくられ先學期末無事研覈達成されて歸朝された、爾後歸朝講演會を本學講堂に、研學の一端を北海道における夏季大學の講演に、なされたる等、猶學生に對する講義は今秋より開講される筈なれば一同其の風格に接するを鶴首して待つて居る。(達助手)

人文學研究室報

□六月十八日 左の講演ありたり。

一、短冊について 鈴 鹿 教授

來會者十數名あり。教授の所藏にかゝる諸大家の短冊について實地にその起源、様式、書體等詳細なる研究を發表せらる。(堂谷助手)

最近佛教研究論文一覽

(大正十四年 自一月至六月)

(一) 原 典

西藏傳の阿含經に就いて 寺本 婉雅 宗教研究 三〇四

般若經の諸問題 干潟 龍祥 同 同

法華部大觀(下) 本多 日生 倫理講演集六、三八

般若心經秘鍵末註解題 林田 光禪 密宗學報 二九

現在梵本法華より什譯十如に及ぶ

岡 敦彦 中外日報 一月末

教行信證流通分の研究 梅原 眞隆 親鸞聖人研究四、四三

無量光如來安樂莊嚴經 大谷 光瑞 大乘 四二、二四

般若理趣分と其類本に就いて 伊藤 方鑒 臨濟大學々報 八

選擇集の著作年代について 井川 究慶 歴史と地理 五三

教行信證破壞論について 中井 玄道 龍大論叢 二〇、六二

歟異鈔の撰者について 梅原 眞隆 同 同

和語燈錄三本の比較研究 高千穂徹乘 同 二六二

禹域出土墨寶錄 中村 不折現代佛教三二、三三、四

大正一切經 德富 蘇峯 同 二二三

佛教聖典の成立順序に就いて 長井 眞琴 同 二二四

華嚴聖典の價值 龜谷 聖馨 中央佛教 九四

釋論末書發達史觀 香川 英隆 密教研究 六六

佛教研究 第三卷 第六號

一一四 三三〇

古典義書の實相論的研究序説 増永 雲鳳 第一義 二六四
順中論義入大般若波羅密經初品法門に就いて 玉置 賴晃 禪學研究 一

(二) 教理及教理史

佛教に於ける心理論發達の大觀 木村 泰賢 宗教研究 二二
十二因縁の傳統的解釋に就いて 赤沼 智善 同 同
題目の史的考察 布施 浩岳 同 同
禪の本質に關する序論 鈴木 大拙 同 二二三
佛教心理學に於ける心作用分類の發達 木村 泰賢 同 二二三

涅槃に就いて 長井 眞琴 同 二二三
十二因縁の解釋 宇井 伯壽 思想 二四
阿字觀私考 淺井 義明 密宗學報 二四
無明思想の成立 塚本 善隆 佛教學 二二二
信行禪師の三階佛法に就いて 伊藤 祐晃 摩訶衍 二二三
論註を通じて見たる曇鸞の教判論 大橋 精達 同 同

佛教の道德的精神と其行爲に就て 齋藤 唯信 同 同
古代印度の輪廻思想 甲斐 實行 同 二二四
祕密の道德的宗教的意義 田中治吾平 同 同
信の座としての地獄 山邊 習學 同 二二三
十如の原因に就いて 大野 法道 同 同
佛教に於ける倫理 渡邊 棟雄 同 二二三

教外別傳の意義 東密と台密(二) 手島 文蒼 臨濟大學々報 八
菩提心論及び大日經住心品疏に説かれたる菩提心義 大山 公淳 密教研究 六
佛界縁起論 田邊 耕本 同 同
大曼荼羅本尊に對する唱と信と觀との關係 清水 龍山 大崎學報 六
法藏部の教理考 高田 惠忍 同 同
十二縁起概説 高井 觀海 密宗學報 二四
禪宗安心の要諦 兒玉 虛石 同 二四
鑑知國師の生佛一體説に就て 木村 宗圓 禪學研究 一
阿彌陀佛觀の發達 上杉慧岳西山教義研究二、三合 三浦 貫道 同 同
日本淨土教義史 井口 泰溫 同 同
法然上人門下分流に關する私考 法水 立順 佛教學 二二

草木成佛論 増山 顯珠 龍大論叢 二二六
法界の意義に就いて 龜川 敦信 同 二二三
慈覺大師の教判論 大山 公淳 密宗學報 二二六
大乘と小乘 高楠順次郎 現代佛教 二二六
菩薩と佛 同 二二〇
瑜伽派の三摩地階段 長谷部隆諦 同 同
煩惱と菩提 高楠順次郎 同 二二二

(三) 傳記、寺誌、歴史

法華經史上に於ける龍樹 本田 義英 宗教研究 二二

偉人玄奘

龍樹の傳及著書(中)

眞盛上人と皇室進講

實如上人に就いて

義淨三藏の行蹟について

眞宗學窓夜話

佛教は如何にして傳へられて來たか

平安朝の文化と入唐僧靈仙三藏

佛弟子と佛説の理解

日蓮上人と富木氏

密教發達史上に於ける觀賢僧正

密教事相史上より見たる觀賢僧正

日本密教徒の見たる龍樹菩薩傳

玄奘三藏の寂年に就いて

光言と明惠上人

宗史研究の資料に就いて

六朝時代の譯經家

羅什三藏傳(其一)

了翁禪師に關する異説について

對佛教關係に於ける信長觀

南北朝と大覺寺

後宇多法皇と東寺

奄然の入宋について(承前)

松本文三郎 宗教研究 二二三

羽溪 了諦 龍大論叢 二六〇

新城 新藏 同 同

西光 義遵 同 二六二

故永野知周 同 同

妻木 直良 同 二六二、二六三

干瀉 龍祥 現代佛教 二九

小野 玄妙 同 二二三

渡邊 棟雄 現代佛教 二二三

小林 一郎 法華 二二三

松永 有見 密教研究 二五

公淳 同 同

中外日報 二月中旬

松本文三郎 密宗學報 二四

服部 如實 同 同

高瀬 承嚴 佛教學 二二

梅澤 和軒 中央史壇 二二三

同 同 二四

大森金五郎 同 同

吉田 月仙 禪學研究 一

中村 直勝 密宗學報 二四二

山本 忍梁 同 同

西岡虎之助 歷史地理 四五五

五山叢林史話

一遍上人と日蓮上人

孔夫子と親鸞聖人

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

同 同

(四)教會及教界

佛教寺院の性質

白蓮社の復興運動

寂如上人時代の本願寺

西藏佛教の概要

日本の佛教

飛鳥時代の寺院に就て

初期の叡山佛法

源信を中心とする日宋文化の交渉

西岡虎之助

後北條氏と一向宗

(五)藝術、地理及考古學

山東の佛蹟を叙して道院に及ぶ

廬山の今昔

敦煌の藝術と佛教

法隆寺が焼けなかつたこと云ふ論について

淨土教關係の藝術とその宗教

佛教美術の敵

武藏國妙正寺の石棒

鷲尾 順敬 中央史壇 二〇三

今岡 達音 佛教學 二二三

高島 米峰 觀想 二五

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

同 同 同

東大寺法華堂の諸佛	田中 豐藏	思想	三	宗教學の發生	矢吹 慶輝	宗教研究	二三
アマラプチの塔と南天鐵塔說	榊尾 祥雲	密教研究	六	宗教人類學の提唱	宇野 圓空	同	同
上代墳墓の營造に關する一考察	梅原末治	藝文	一六四	舍利供養に就て	長井 眞琴	同	二四
當麻曼陀羅と善導の著書及則天淨土變	望月 信亨	寧樂	一三	澆末思想に對する一考察	泉 芳璟	同	二三
十六弟子と寫眞の問題	中井宗太郎	同		奈良朝時代に於ける寺院の門舉事業	魚澄惣五郎	龍大論叢	二六三
石窟古寺と其藝術	小野 玄妙	同		宗教の本質と佛教	木村 泰賢	現代佛教	二一〇
東大寺建立の思想	筒井 英俊	同		佛教々理に於ける説明と規範	佐藤 泰舜	同	同
佛教藝術雜話(一)	小野 玄妙	同		佛教思想の經緯	羽溪 了諦	同	二二
如意輪觀音と彌勒菩薩	望月 信亨	同		死門より解脱して	椎尾 辨匡	同	同
搏榔式古墳に就いて	上田 三平	同		如來と眞如	高楠順次郎	同	二三
西藏美術の系統と根源	河口 慧海	同	九三四	現代に於ける菩薩道	小林 一郎	同	同
中古諸藝術の推移	田部 重治	講座	二六、二七	差別と平等	高楠順次郎	同	二二三
神社及寺院建築と住宅建築(上)	喜田 貞吉	歷史地理	二五、二六	宗教史教育の提議	赤松 智城	宗教と思想	二三
百濟觀音像	濱田 青陵	佛教美術	二	明治維新の際に於ける廢佛毀釋の原因	河野 法雲	密宗學報	一五
來迎の藝術	源 豐宗	同	同	四恩說に對する一考察	松本文三郎	宗教と思想	三、四
ブラアスに見えたる尸模樣など	島 華水	同	同	布施の研究	荒木 良仙	中央佛教	九三、四
印度の佛像と美の思想	松本文三郎	同	三	垂加神道の根本義と本居への關係	村岡典嗣	思想	四
上醍醐清瀧堂拜殿付石燈	天沼 俊一	同	同	芭蕉を中心とせる俳諧と禪との關係福富椿山	禪學研究	一	一
支那の繡佛に就いて	神田喜一郎	同	同				
山石船寺と九體寺	小島 貞三	同	同				
師子國遊記	天沼 俊一	同	一三				